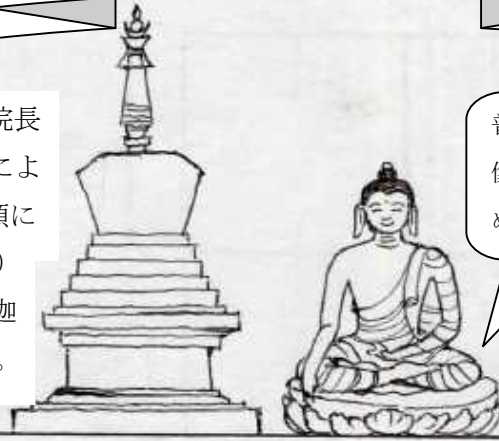


# 地震を鎮める陀羅尼の使い方

この陀羅尼は、ギョトウ密教僧院長のチャド・リンポチェの御発案によって作られたものです。上から順に  
釈尊・蓮華生（グル・リンポチェ）  
忿怒相・地藏菩薩・縁起蔵・金剛迦楼羅の陀羅尼が納められています。

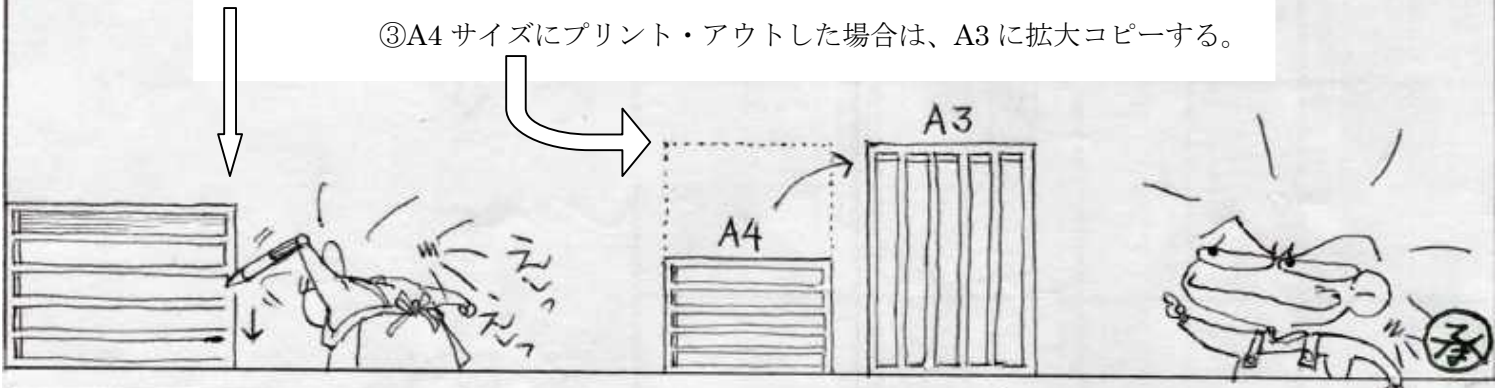


普段は仏塔や仏像の中などに納められる。



さてその使い方ですが、

- ①原稿をプリント・アウトする。(A3サイズにプリントできればベスト！)
- ②原稿の左右何れかの端が切れている場合は、右端・左端の線を必ず引く。
- ③A4サイズにプリント・アウトした場合は、A3に拡大コピーする。



- ④5段ある陀羅尼の間を切って五枚の細長い陀羅尼に分ける（大きな仏像等に納める時は大きなままでよい）。
  - ⑤陀羅尼の末尾を中心にして、字が印刷してある部分が内側になる様にきつく巻く。
  - ⑥巻き上がったら、緩まないように端をのりで接着し、上下を示す印を付ける。
- 清潔を保ち、敬意を持って扱きましょう！**
- ⑦できれば儀軌を通して加持を受ける。



- ⑧仏像や仏塔の中に納める。
  - ⑨仏像・仏塔の開眼供養。
- オプション：御守り袋やビニールの小袋に入れて、仏壇や清潔で少し高い所に保管しても良、携帯しても良い。

この陀羅尼は、  
チャド・リンポチェの純粋な御好意より作られたものです

だから。。。。



# 地震を鎮める陀羅尼の使い方

## 上級者編

『地震を鎮める陀羅尼の使い方』の上級者用解説

- ③～④ の間：サフラン水を作り、綿棒等に浸けて陀羅尼をなぞり御衣を捧げる。めんどくさがりには紙ごとサフラン水に浸けちゃう。その後良く乾燥させる。



- ④：仏像等に納めるのであれば、納め先の大きさによって陀羅尼の大きさを調整する。  
小さな仏像に納める場合は、陀羅尼を拡大せず、5段1組を1段ずつに切って分けても良い（頭部の小さな空間等）。

- ⑤：一般に、5段1組を基本として細く巻き上げたければ1～2枚。太くしたければ好きなだけ多く重ねる。

太く巻く場合の巻き方

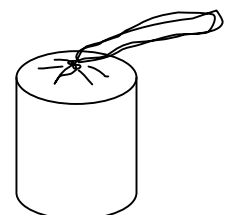
- 1) 巻きの中心（普通は陀羅尼の末尾、マニ・観世音菩薩の真言の場合は文頭を中心にして、文字を内側にして巻く）に御線香を置いて、しっかりと巻き始める。
- 2) 最初の1枚目が巻き終わりそうになったら端を5～10cm程残して、2枚目の末尾を1枚目の巻き口に挟み込む。文字を内側に！
- 3) 1枚目を続けて巻いて、2枚目も同様に巻く。
- 4) 3枚目以降も同様に巻き込む。
- 5) 普通に巻き終わったら、机等清潔な場所に押し付けながら何度も転がし、更にきつく巻く。

- ⑥：巻き終わりをのりで貼る。上下を示す印を付ける。  
御守り袋のような筒状の布製袋（大きさが丁度良いもの。隙間がでないものがベスト！）に納める。

陀羅尼を納めたら、中を開けて見る事ができないように口をしっかりと縫い付ける！



- ⑧：納め先が大きい（何10cm～何m）場合、できれば巻き上がった陀羅尼を黄色・オレンジ色・赤色等の筒状の布製袋に入れて、袋の口をしっかりと縛る。太い円柱状になる。  
仏像等に陀羅尼を納める場合、隙間の出ないようにきつく詰めて納める。陀羅尼や御経の間に小さな隙間ができたなら、線香や粉上の御香・よく乾かした香木・香の葉を詰めて隙間を無くす。



- ⑨：開眼供養。  
小さな御守りでも、仏様の宿る拠りどころとなる（仏様のお言葉が納められている為）ので、開眼供養を受けられればより効力の強いものになる。